

受検要項：ミュージカル シアター（抜粋）

検定の概要

課題曲

グレード 1-3 では、リストから各々一曲ずつ伴奏付きの 3 曲、及び無伴奏 1 曲の計 4 曲が歌われます。これらは 1920 年代から現在までのミュージカル作品から抜粋され、異なる特徴と様式を備えており、このリストには毎年新しい曲の追加が予定されております。

リスト A、B 及び C から伴奏付きの曲を選ぶことにより、歌唱の表現の幅が示され、又、生のピアノ伴奏は、コンサートやオーディションの良い練習にもなるでしょう。他の音楽家と共演することは、大切な音楽技術の一つである事は申すまでもありません。

無伴奏曲（ア カペラ）は要項の青い☆マークのついた曲から受検者により任意に選択され、歌われます。これは、音程を整えることにより受検者の耳を鍛え、自信をつける良い方法です。オーディションやソロへの良い準備ともなることでしょう。

初見視唱

初見視唱力をつけることには、多くのメリットがあります。新しい曲に自信を持って臨め、更に読譜力も高まり、オーディションの際にも役に立ちます。合唱やアンサンブル等で他の人たちと一緒に音楽をする際、直ちに参加できることを可能にします。

視唱の曲—短い新曲—は、ミュージカル シアターに適した選択に基づいた、魅力的で馴染みのある様式のものも多く、英語の歌詞が付きます(オプション)。通常、最後の数小節を奏でるピアノのイントロに続いて歌い始めます。ピアノはグレード 1-2 では、メロディをなぞって弾かれ、又グレード 3 ではアウトラインをサポートします。読譜だけではなく、貴方の聴く力が。ここでも役に立つでしょう。

オーラル テスト

この分野での力を養うことにより、貴方の「音楽的な耳」が育ちます。優れた聴く力により拍を感じ、速さを保ち、旋律や和音を理解することが出来ます。これらは限られた練習時間内に音楽を把握する場合、非常に役に立つ技術です。ミュージカルの歌手はこの分野においての能力がとても高い場合が多く、この検定によって、この力がますます伸びていくでしょう。テストの内容は、拍子打ち、模唱、違いを示す、および検定員によって演奏される曲についての質疑応答などが含まれています。

ミュージカル シアター 要項

目次	ページ(英文)
グレード1	1
グレード2	8
グレード3	17
検定規定	27
評価の基準 (他の楽器に準ずる)	32
曲目リスト	33

SINGING FOR



MUSICAL THEATRE

グレード 1 : 英文 1 ページ

伴奏付きの 3 曲 : 受検者は下記の A,B,C の各リストから 1 曲ずつ計 3 曲を選択し、暗譜にて歌います。

無伴奏の 1 曲 : 青い☆印の曲 (どのリストからでも可) を 1 曲選択し、暗譜にて歌います。

初見視唱 : 検定員によるピアノ伴奏で、短い新曲を歌います。

オーラル テスト : 検定員によるピアノ演奏と共に行われます。

リスト A

Annie Get Your Gun <ミュージカル名>

I. Berlin <作曲者名>

A:1 I got lost in his arms PG ★ ⇒ Annie Get Your Gun: vocal selections
<曲名> <大人向き/無伴奏曲> < 曲名/曲集名>

(Hal Leonard) <出版社名>

C (D4-E5)
<調 音域>

(以下同様)

受検要項：英文 27 ページ～（抜粋）

ここでは受検に関する重要な情報が含まれます。詳細については下記のウェブサイトを参照願います。 www.abrsm.org/examregulations

受検申込み

現在、ミュージカル シアターの受検はグレード 1-3 まで可能です。それ以上のグレードについての要項は 2019 年秋以降に発表される予定です。受検者はどのグレードからでも受けることができます。

申し込み方法（受検日程、締め切り、検定会場、検定料など）については、そのつど下記の日本代表事務局の HP でご確認ください。 www.kakehashi-foundation.jp/

検定の配点 及び評点基準

全てのミュージカル シアターの配点は以下の通りです。

伴奏付き課題曲	1	30
伴奏付き課題曲	2	30
伴奏付き課題曲	3	30
無伴奏課題曲		21
初見視唱		21
オーラル テスト		18
総合点		150 点

評点基準

150 点のうち、合格には 100 点(全体の 66%)が必要です。120 点以上で優(メリット)、130 点以上で秀(ディステインクション)の評価が与えられます。又、各項目において、必ずしも 66%以上を獲得しなければ合格しない、というわけではありません。

伴奏付きの曲 (Accompanied Songs)

課題曲の選択 (Programme planning)

グレード 1-3 において、受検者は A,B,C の各リストから 1 曲ずつ選び計 3 曲、さらに自由選択にて無伴奏曲を 1 曲選び、歌います。

課題曲は、受検者の年代やバックグラウンドが考慮され幅広く選択されておりますが、声域、や歌詞の内容、作品の歴史、文化的なテーマによって、必ずしも全ての受検者に当てはまるとは限りません。

中には、成人向けの内容の為、保護者／指導者との相談のもと、選択される必要がある曲も見られます。それらの曲には **PG** マークが表示されています。

歌詞の言語について (Languages)

全てのグレードにおいて、オリジナル言語での歌詞あるいは、出版されている言語訳にて歌います。要項には各リストの中で曲の言語が、詳しく示されています。

調性について (Keys)

要項には全ての曲について(調性が複数にわたる場合は声域のみ指定)出版されている楽譜の調と声域が詳しく書かれています。一曲に複数の楽譜が出版されている場合は、調性が音の高い順に示されています。声域に関しては、最初に書かれている楽譜にのみ、記されています。声域はヘルムホルツ方式に基づいています。(英文 28 ページの譜例参照のこと)

すべての曲は出版されている楽譜通りでも又移調されたものでも可、受検者の声域にあった調性で歌われます。

課題曲の楽譜 (Editions)

受検者は要項中のどの版(ダウンロード版も含む)を使用してもかまいません。

要項に掲載されている出版社名は、現在出版されている楽譜の一例として参考にして頂ければ結構です。調性、音域、翻訳などについても同様です。

歌詞について(Lyrics)

全ての曲は、性別を問わず歌われます。その為、性別に関する代名詞などの表現を変換することも可能です。登場人物が複数の曲も、歌詞をソロ用に変換して歌われます。

ヴァースと繰り返し (Verses and repeats)

受検者は全曲を通して歌わなければなりません。繰り返し、ダカーポ、ダルセーニョなども含みます。但し以下の場合を除きます。

- ・要項に「省略」の記載がある。DS/DC で歌詞が異なる場合は受検者が任意に選択)
- ・完全な繰り返し(音楽や歌詞に全く変化が見られず、繰り返しが音楽的に意味を持たない場合)

暗譜について (Singing from memory)

すべての曲は暗譜にて歌われなければなりません。

伴奏者について (Accompaniment)

伴奏付きの曲は、すべて、生の伴奏者を必要とします。伴奏者は伴奏する時のみ、検定室に入室することができます。指導講師による伴奏は許されますが、受検者自身が自ら伴奏をすることはできません。又、初見視唱の場合をのぞいて、検定員はいかなる場合でも伴奏はしません。必要に応じて伴奏者は伴奏の一部を省略できます。

無伴奏曲 (Unaccompanied Songs)

全てのグレードにおいて、受検者は当該リストから青い☆印の付いた曲を無伴奏、暗譜にて歌うことになっています。同じ曲を伴奏つき、無伴奏両方で歌うことはできません。無伴奏曲は、言語、調を選びません。出だしの音又は主和音をピアノで確かめることも出来ます。

初見視唱 (Sight Singing)

役に立つ情報 (Useful information)

初見視唱の伴奏は検定員が行います。視唱の準備の前に、まず序奏が弾かれます。

グレード 1-3 の初見において受検者は、簡潔な英語の歌詞又は、母音、又はドレミで歌います。

受検者はト音、或はヘ音記号の音域を選択できます。

練習問題集 (Specimen Tests)

準備のために、グレード 1-3 の練習問題集が ABRSM 出版から出ています。

初見の前に (Preparation)

検定員は主和音と開始音を与え、次に開始和音で終わる序奏を弾きます。その後、受検者は約 30 秒の予見時間が与えられ、その間、試唱をしても良いことになっています。

検定では (Tests)

実際の検定では、再度主和音と開始音が与えられ、2 拍カウントの後に序奏が始まります。受検者は序奏と同様の拍、テンポを保ちながら歌います。

伴奏について (Accompaniments)

検定員が弾く序奏によりテンポが決められ、歌い始めます。グレード 1,2 に於いて伴奏はメロディの音にかぶせられ、更にグレード 3 では、伴奏の割合は増えていきます。

各グレードにおける音楽要素 (Parameters)

グレードが進むにつれて、息継ぎの為の休符を含み、徐々に音価が増えていきます。英語(理論試験レベルの範囲)での表記がみられ、又、強弱記号は旋律の上部に示されます。なお、表に出てくる各要素はそのグレードにおける新出事項を示しています。(英文 30 ページ参照のこと)

検定では (In the Exam)

曲目リスト (Song list)

受検者は演奏予定の曲目番号(例:リスト A の 16 番目の曲であれば、「A16」)を含む曲目リストを提出しなければなりません。曲目リスト用紙は要項の最後のページにあります。

演奏と評価 (Performance and assessment)

受検者は検定員が評価を書いている間も、聴衆に向かって音楽をするという態度を保たなければなりません。一方検定員は評価を書いている間も、音符やリズムの正確さのみならず、演奏に必要な音楽的な要素について常に注意を払っています。その要素とは、バランスの良い姿勢、呼吸のコントロール、音程の確かさ、声質の幅、アーティキュレーション、発声の仕方、柔軟性、機敏性、速度設定の的確さ、フレージング、様式の理解、表現の豊かさ、更に、暗譜の確かさなどです。

オーラル・テスト：全ての実技検定で実施されます

「聴くこと」は、良い音楽を創る基礎であります。「音楽的な耳をもつ」ことは、音楽力の決定的な要素であり、音楽の訓練の基礎となるものです。声に出しても、出さなくても「うたうこと」は、「音楽的な耳」を育むのに最良の方法です。楽器で音を探すのではなく（それ自体は意味のあることですが）、「内なる耳」で、聴くことにより、音のイメージを創り、音として表すことができます。レッスンの中で、このようなイメージトレーニングをすることにより、オーラル・テストの準備は自然と行われ、検定へと結びつくのです。

検定では

オーラル・テストは、実技検定の一部です。

オーラル・テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも、音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

評価

いくつかのテストでは、必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は、検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは、評価に影響を与える場合もあります。

オーラル・テスト：グレード1

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。

- B 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。

- C** 長調の 2 小節のフレーズが 2 回弾かれます。2 回目にメロディが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分かを答えてください。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合があります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス (p/f、強さの変化) ②アーティキュレーション(スタッカート/レガート)についてです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード 2

- A** 2 拍子、または 3 拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B** 長調の限られた音域内の 5 音からなる短いフレーズが 3 題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。 各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調の 2 小節のフレーズが 2 回弾かれますので、リズム或いはメロディーの違いを答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合があります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する 2 つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス (強弱/強さの変化)、アーティキュレーション(スタッカート/レガート)、②テンポの変化 (速くなった/遅くなった/変わらない) に関するものです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード 3

- A** 2 拍子、3 拍子または 4 拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B** 長調または短調で 1 オクターブ内の短いフレーズが 3 題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。 各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。

- C** 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、リズム或いはメロディーの違いを教えてください。説明でも、歌／手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に教えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション(スタッカート／レガート)、テンポの変化(速くなった／遅くなった／変わらない)②調性(長調／短調)に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。